

-Index- 紙上報告「第12回みみネットアカデミー」
チャレンジ！発音指導⑱
(た、て、と音)



紙上報告

第12回 みみネット アカデミー



令和5年12月25日(月)に、本校主催の研修会「第12回みみネットアカデミー」を開催しました。

きこえにくい子どもたちは、きこえる子どもたちに比べ、聴覚から入力される言語情報が少ないことから言語発達の遅れが指摘されています。そこで、今回のみみネットアカデミーでは、きこえにくい子どもたちの言語発達についてお話したのち、本校幼稚部・小学部の教員が、日々子どもたちの「ことば」を育てるために、どのようなアプローチをしているか、また、どのようなことに気を付けているのかをご紹介します。参加者のアンケートとともに、研修会の概要を報告します。

Lesson 1 「きこえにくい子どもの言語発達」

講師：本校首席 木村 純子（幼稚部）

乳幼児期には、身近な人と関わりたい気持ちがあるが、ことばを育てる土台となるため、子どもの思いを受けとめて、わかり合える方法でのやりとりが求められることをお話ししました。また、ことばで考える力が必要となる学童期には、ことばでアウトプットする機会を増やすことや、どこに課題があるかを把握して支援することが大切であることをお伝えしました。

- ・乳児なので、生活、遊びを友だちと一緒に同じ経験ができるようにこれからもしていきたいです。早口なので、ゆっくり声掛けしていきます。
- ・補聴器を使用しているからきこえているという認識だったので、講座を受け間違いに気づきました。話しかけ方など注意しようと思いました。

- ・「5歳の坂」ということばを初めて知ったので、それを念頭に入れて接して行きたいと思った。
- ・生活での言語、学習での言語のつながりを確認できて、よかったです。生活言語を楽しく増やしていきたいです。
- ・基本的なことを思い出せてよかったです。分かり合える方法をもう一度検討したいと思いました。
- ・本校の児童は、人工内耳を使っていますが、どうしても周りにはきこえていると思われてしまいます。理解できていないことばも多くあるということをほかの教員にも伝えたいと思います。
- ・乳幼児期からの生活言語が土台となり、学童期以降へつながっていく大切さを学ぶことができました。



Lesson 2 「幼稚部段階でのアプローチ」

講師：本校教諭 土口 真奈（幼稚部）

本校幼稚部では、自立活動・保育・生活・遊びの繋がりを意識しながら、子どもや保護者と関わっています。Lesson 2では、日々の実践をもとに、幼稚部段階でどのような点を大切にしているのか、アプローチの仕方についてお話ししました。



- ・取り組みについて詳しくお聞きすることができ、よかったです。連携、協力の大切さがよくわかりました。
- ・行事の写真に文をそえ、助詞に○をつけて掲示するのがとても良いと思いました。きこえる・きこえない関わらず、低学年の児童の言語発達に効果的だと思いました。
- ・年齢に応じた視覚支援がたくさんあることを知りました。保育所でも活用したいです。
- ・幼稚部での積み重ねが大切だと感じました。いろいろな方法で試してみたいと思います。
- ・子どもの課題をはやく見つけて、個にあった取り組みをすることの大切さを知りました。「9歳の壁」、今まさに悩んでいます。
- ・スライドに写真が入っていて、わかりやすかったです。

Lesson 3 「小学部段階でのアプローチ」

講師：本校教諭 山口 亜希子（小学部）

教科学習では、視覚的な支援などの環境を整えたうえで、新出単語を手話・指文字で確認したり、日常生活のなかで意識的に使ったりするなど、本校小学部で大切にしている点についてお伝えしました。また、子どもがことばを間違えてアウトプットしたときをチャンスと捉えて、丁寧に指導することの大切さについてお話ししました。



- ・視覚支援の大切さ、理解しているかの確認など、今後の指導や支援にいかしていけるお話をたくさん聞かせていただき、ありがとうございました。
- ・覚えまちがいの具体的な例がたくさんあり、とても参考になりました。
- ・気になっていたきこえの部分がよくわかりました。

- ・保育所でも具体物の名称を伝えながらやりとりをしていきたいと思いました。
- ・発音で気になるところがあるときや、あまり理解できていないような表情をしているときなど、少しでも違和感があるときは、ゆっくり指導してあげたいと思います。
- ・想像以上にことばのイメージ、ニュアンスを理解することが難しいということがわかり、具体的な手だての写真を見て、難聴以外でも困っている児童に支援するときに活用させていただきたいと思いました。
- ・どの児童にとっても大切な支援の仕方を教えていただき、ありがとうございました。日記・作文をたくさん書かせたいと思います。
- ・間違った発音に気づくことも、間違っている発音をなおすことも難しいことなんだなと感じました。普段私たちが普通にしていることも、普通ではないことに気づきました。

「9歳の壁」って何？

今回の研修会では「9歳の壁」「5歳の坂」についての話がありました！

9歳の壁「9歳レベルの峠（萩原浅五郎 1964）」

- 小学校中学年程度における学力の停滞
- 抽象的な語の理解、仮説演繹的思考、論理的思考が困難

5歳の坂（齋藤佐和 1986）

- コミュニケーションにおける言語の比重が高まり、未経験的事項（知識・情報・物語・意見・感想・論述など）もことばで伝わるようになる転換期



Lesson 1 では、書籍等の参考資料についての紹介がありました。ぜひお読みいただければと思います！

『特別支援教育・療育における 聴覚障害のある子どもの理解と支援』

廣田 栄子 学苑社 (2021/8/6)

『ことばをはぐくむ 発達に遅れのある子どもたちのために』

中川 信子 ぶどう社 (1986/6/1)

『聴覚障害児の言語指導 一実践のための基礎知識一』

我妻 敏博 田研出版 (2011/10/1)

『「9歳の壁」を越えるために 生活言語から学習言語への移行を考える』

脇中 起余子 北大路書房 (2013/4/1)



研修会へのご参加及びアンケートへのご協力、ありがとうございました！

チャレンジ！発音指導 18

た、て、と音

「た」の子音 [t] は、前舌を中歯ぐきにつけて、息を止め、急に舌をはなすと同時に息をだして破裂させると [t] 音になります。破裂の瞬間には、口が開いて急に舌面が下がります。この移動が早いほど発音が明瞭になります。それに母音の[a] [e] [o] をつけると「た、て、と」になります。特に、[t] 音は舌の安定を図るのに都合がよい音であるから、母音の正確さの誘導として早くから練習をして習熟を図るのがよいと言われています。

練習方法は、舌の先で上歯茎の裏をなめる練習や、ボーロなどのお菓子を歯茎の裏に強くつけてつぶさせることによって、舌の調整力を養う方法があります。

また、比較的構音点が見えやすい位置にあるので、鏡にむかって指導者の発音と自分の発音を比較させながら、要領を覚えていく方法もあります。



「みみネット」編集部：

大阪府立中央聴覚支援学校 聴覚支援センター 担当：中咲、金森

〒540-0005 大阪市中央区上町1-19-31

TEL. 06-6761-1419 FAX. 06-6762-1800